

「毛拔」其他

桑木或雄

今年、東京劇場の一月狂言に歌舞伎十八番「毛拔」があつた。私は残念ながら見物しなかつたが、新聞では一般に好評であつたようである。実は私は「毛剃」の芝居なら予て知つてもいたけれども、「毛拔」という芝居は今まで余り聞いてもいなかったが、二三年來電気磁氣に関する知識の發達をしらべる目的で、犬棒的に我國の古い文献などあさつていゝうち「磁石」といゝ題の能狂言が見つかり、又偶然「毛拔」といゝ歌舞伎十八番に磁石応用の筋があることを知つたのが始めて、やがて明治二十五年の『歌舞伎新報』でその台本を読み、伊原青々園氏其他諸家の著述中の「毛拔」研究に大いに啓蒙せられるに至つたのである、今度の東劇所演を機として『演芸画報』等にも記されるであらうから、茲に一々贅言する迄もないがこの劇は寛保二年（西曆一七四二年）の新作で、二代目市川團十郎の爲めに書下され、大阪で初演といふことである。二代目の後、四代目等も演じたが、九代目は遂に演ぜず、明治の末年久し振りに今の左團次が演じ、その後今度が三度目のようである。今度も出たことと思われるが、桑寺弾正が娘君逆髪の奇病を御見舞に参上し下に置いた「毛拔」が踊り出すが、真鍮の煙管は踊らないといふところが又、甚だ科学的であるが、又、娘君の櫛笄がこの頃流行の延べ銀であるといふのを手に取り見ればブリキ製であつたりし、髪油に鉄粉がまぜてあることを發見する。

即ち、姫君の逆髪は、畢竟物理書に所謂磁力線の実験であるとして、見物の中学生を喜ばせたことと思われるが、又このとき弾正が天井を鎗で突くとき何とか仕草があるとのことである。天井に忍んでいる曲者の持つ磁石で、鎗

の穂先が操つられるという作者の味噌か。又この「毛抜」劇中の人物が、同じ歌舞伎十八番「鳴神上人」と関係があるということは、いかにも鳴神は電気、毛抜は磁石と互に縁のあることであるが、電気とはエレキの訳字、エレキの語原は琥珀こはく、雷がエレキであり、即ち琥珀拾芥と同種の現象と知ったのはベンジャミン・フランクリンを始めとし、その発見は「毛抜」新作よりも数年後にあたる。

磁石なる名が我国の文献に現れたのは『続日本紀』に、和銅六年（西紀七三二年）近江国より磁石を献ずとあるを始とし、その頃には磁石の吸鉄性は知られていたが、磁石の指北・指南は世界のどこでも未だ知られて居らず、この指極性の知識に関する文献は支那に於ける宋時代、西紀十二世紀頃のものを中心とするようである。我国では上記和銅六年以後、国産磁石の文献絶え、江戸時代に入り、貝原益軒の『大和本草』（一七〇八年）にも、舶来（支那）磁石について記すだけであるが、伊藤東涯の随筆『輜軒小録』に、享保年間、千七百三十年代に、「諸国藥物御吟味の結果」奥州・信州等より磁石を掘り出したという記事あり、東涯は、「磁石の日本に産すること前代未聞珍しきことなり」と記している。「毛抜」の出来たのは、これより十年ばかり後であるから、その頃国産発見等で磁石が我国の一の流行をなしたのであろうと思われる。

能狂言の「磁石」は、若し之を足利末期あしかがの作とすると、その頃の磁石は舶来物であつたらう。この狂言のシテが、「それがしは、唐土と日本との境のちくらが沖に在る磁石の精ちや」と云っている。磁石山ということはアラビヤ『千一夜物語』にもあり、其他、印度洋、南支那等の航海者の恐怖となつて居り、附近航海の船の鉄釘など吸いとると信ぜられていたものようである。その話が狂言に伝えられているのも考証の価値があろう。

又歐洲で電気磁気が学問的に研究された始めは一六〇〇年出版イギリス人ウィリアム・ギルバートの大著『デ・マグネテ』に在るが、一六〇〇年は我が慶長五年関ヶ原戦争の年である、この年を江戸時代の初めとすれば、電気磁気学は我が江戸時代と同時に始まったと云える。夫れから百三十四十年を経て初めて摩擦発電機が歐洲で稍々やや大衆

的となり、それがアメリカへ渡り、フランクリンの注意する所となつて前記のような発見に導いた。歐洲で流行し出してから余り時を経ずしてオランダ人が我国へ先ず長崎へ輸入したらしい。平賀源内のエレキテル製作は「毛抜」新作よりも三十年許り後のこととなる。

明治以後、我国に於ける物理学の獨創的研究は、先ず磁石に関して始められ、田中館博士の地磁氣、長岡博士のマグネトストリクシヨンの研究、本多博士の強磁鋼の發明等、我国学会の誇りであり、夙く歐米人の鼻毛を抜いたのである。

- 桑木或雄著『科学史考』（河出書房、昭和一九年）所収。
- PDF化するにあたり、旧漢字は新漢字に、旧仮名遣いは新仮名遣いに改めた。
- 読みやすさのために、適宜振り仮名をつけた。
- PDF化には $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}_{2\epsilon}$ でタイプセッティングを行い、`dvipdfmx`を使用した。

科学の古典文献の電子図書館「科学図書館」

<http://www.cam.hi-ho.ne.jp/munehiro/sciencelib.html>

「科学図書館」に新しく収録した文献の案内、その他「科学図書館」に関する意見などは、「科学図書館掲示板」

<http://6325.teacup.com/munehiroumeda/bbs>

を御覧いただくか、書き込みください。